

3 - 18 シービームによる房総半島東方の海底地形

Detailed Submarine Topography off Boso Peninsula revealed by the Seabeam Survey

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

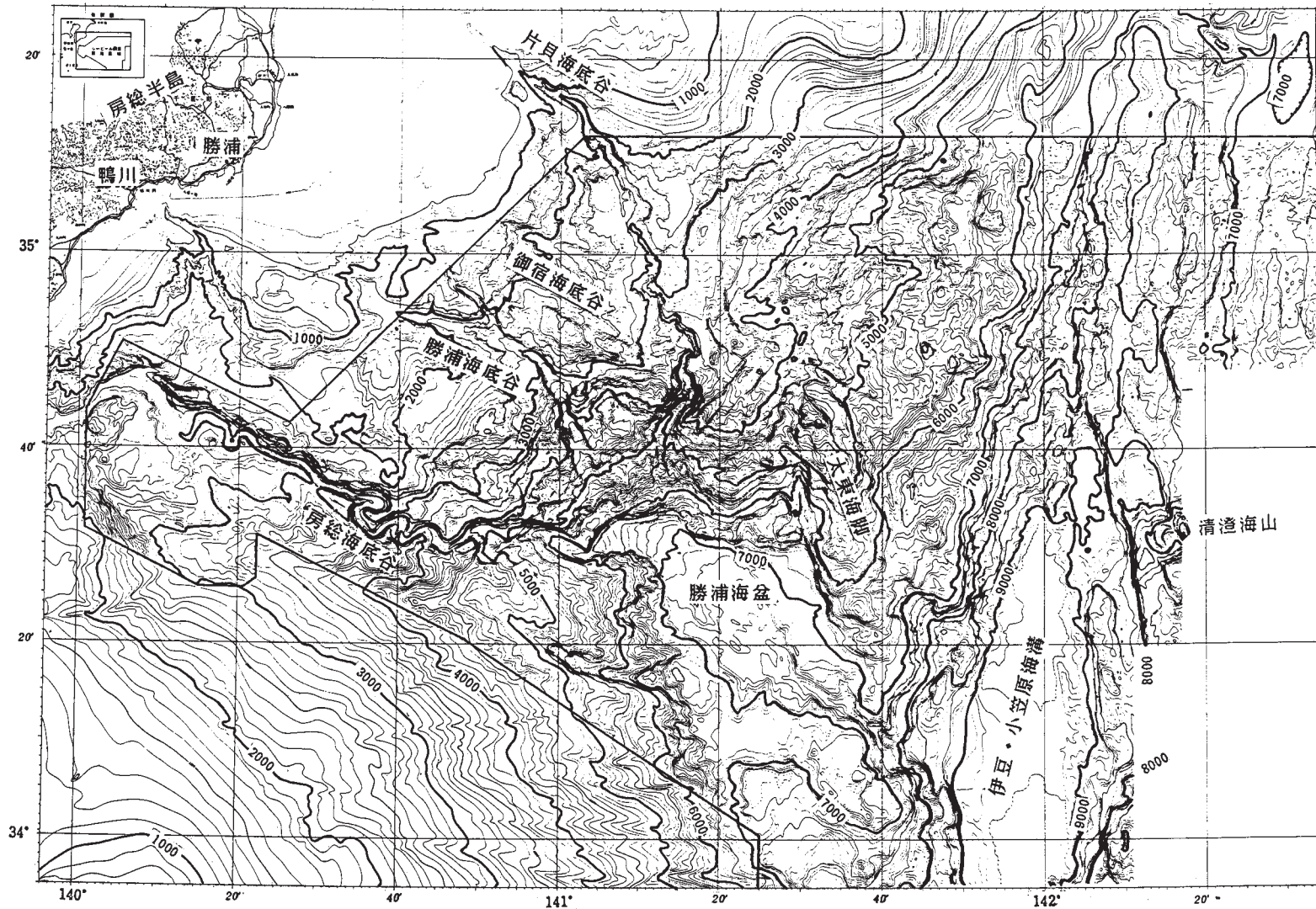
海上保安庁水路部では、昭和 59 年度から昭和 61 年度にかけて房総半島沖の相模トラフ中・東部の海底活構造調査を実施してきた。調査項目は、シービームによる海底地形、音波探査による海底地質構造、地磁気、重力調査等である。調査結果の一部はすでに報告されている^{1, 2, 3)}が、今回は全域が縮尺 1 / 25 万の図にまとまった、シービームによる相模トラフ中・東部の海底地形（第 1 図）について報告する。調査範囲内はシービームで 100% カバーされている。

この調査で明らかになった海底地形の主な特徴は次のとおりである。

- (1) 相模トラフ東部に著しく穿入蛇行するひとつづきの海底谷（房総海底谷）が発見された¹⁾。
- (2) 相模トラフと伊豆・小笠原海溝が会合する海溝三重点には広大な海溝平坦面がひろがり、太平洋プレート側の海溝斜面には、断層群が発達している³⁾。
- (3) 太平洋プレート側の海溝斜面には、断層群によって分断された海山（清澄海山）がみられた²⁾。
- (4) 片貝，御宿，勝浦海底谷が分布する相模トラフの北側の海域には、従来から西北西－東南東方向の構造系が知られていたが、これに加えて、北東－南西方向のリニエーションが認められた。

参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：相模トラフ東部の海底地形・地質構造，連絡会報，**33** (1985)，195-199.
- 2) 海上保安庁水路部：駿河トラフ，房総沖等の海底地形，地質構造調査速報，連絡会報，**35** (1986)，334 - 336.
- 3) 海上保安庁水路部：房総沖海溝三重点付近の海底地形・地質構造，連絡会報，**37** (1987)，184 - 188.



第1図 房総半島東方海底地形図 シービーム調査区域内の等深線間隔は50m, 原図は縮尺1/25万。

Fig. 1 Bathymetric map off Boso Peninsula. Contour interval in the Seabeam survey area is 50 m. Original map scale is 1:250,000.